

西日本鉄道株式会社

サステナビリティファイナンス・フレームワーク

2023年10月

1 はじめに

西日本鉄道株式会社(以下、「当社」)は、以下のとおり、サステナビリティファイナンス・フレームワーク(以下、本フレームワーク)を策定しました。本フレームワークは、国際資本市場協会(ICMA)が定めるグリーンボンド原則 2021、ソーシャルボンド原則 2023、サステナビリティボンドガイドライン 2021、環境省のグリーンボンドガイドライン(2022 年版)、金融庁のソーシャルボンドガイドライン 2021、また「ローンマーケットアソシエーション(LMA)」「アジア太平洋地域ローンマーケットアソシエーション(APLMA)」「ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション(LSTA)」が定めるグリーンローン原則 2023、ソーシャルローン原則 2023、環境省のグリーンローンガイドライン 2022 年版に基づき策定しており、これらの原則等との適合性に対するセカンドオピニオンを株式会社格付投資情報センターより取得しております。

当社及び当社グループ会社は本フレームワークに基づき、サステナビリティファイナンスによる資金調達を実施します。なお、サステナビリティファイナンスとは以下の 3 種類のファイナンスを対象とします。

ファイナンス種別	内容
• グリーンファイナンス	• グリーン適格プロジェクトのみに関連する支出に資金が充当されるファイナンス(ボンド・ローン)
• ソーシャルファイナンス	• ソーシャル適格プロジェクトのみに関連する支出に資金が充当されるファイナンス(ボンド・ローン)
• サステナビリティファイナンス	• グリーン適格プロジェクト及びソーシャル適格プロジェクトに関連する支出に資金が充当されるファイナンス(ボンド・ローン)

1.1 資金調達者概要

当社の前身の九州電気軌道株式会社は、1908 年に北九州市に設立され、軌道、電力、埋立事業を通じて北九州の発展を支えました。

1940 年代に鉄軌道 5 社(九州電気軌道、九州鉄道、博多湾鉄道汽船、福博電車、筑前参宮鉄道)が合併し、西日本鉄道株式会社が誕生しました。また、福岡県下のバス会社を統合し、現在の事業基盤を確立しました。

現在、当社グループは、「『出逢いをつくり、期待をはこぶ』事業を通して、“あんしん”と“かいてき”と“ときめき”を提供しつづけ、地域とともに歩み、ともに発展します。」という「にしてつグループの企業理念」のもと、「まちに、夢を描こう。」という企業メッセージを掲げ、鉄道・バスの運輸業を軸に、地域に密着した多様な事業を展開しています。

1.2 にしてつグループの企業理念

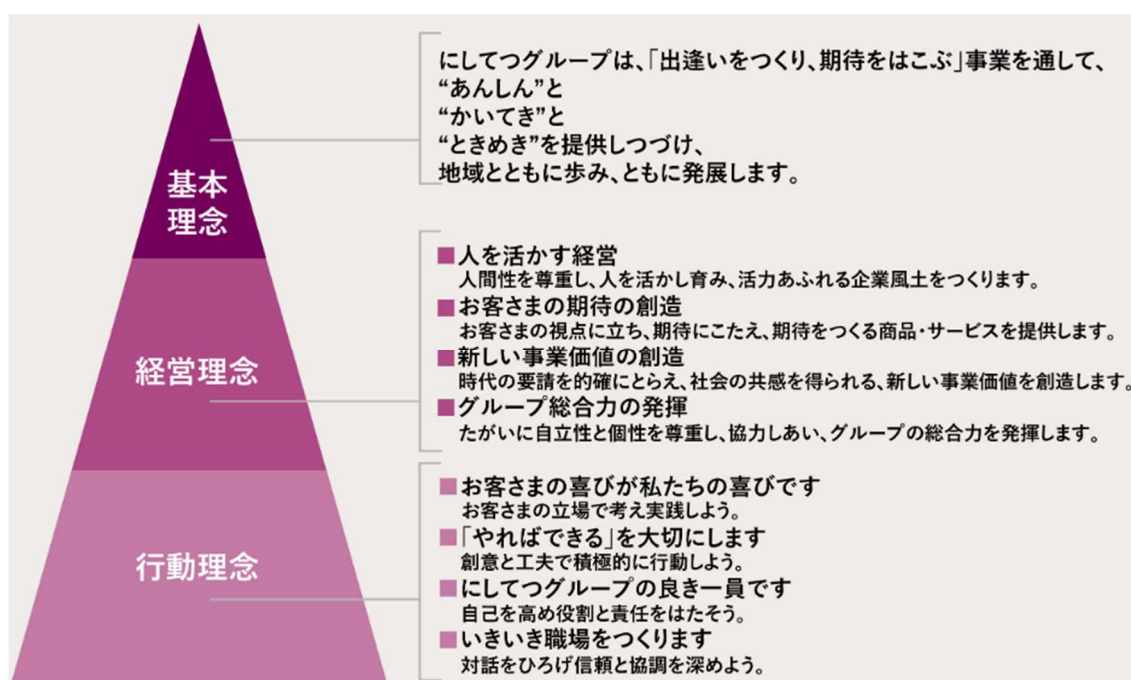
世の中は目まぐるしく動き、人々の価値観も大きく変わっています。

このようななかで、「西鉄グループは将来どうあるべきなのか」という議論を重ね、1993年9月の創立記念日に「にしてつグループの企業理念」を制定いたしました。

この「企業理念」は、私たちが仕事を進めていくなかで判断し、行動するときのよりどころとなるもので、私たちの憲法であり、道しるべであり、航海になくてはならない海図のようなものと言ってもいいかもしれません。

また、「企業理念」は、「西鉄グループは21世紀に向けてこのような企業グループをめざしていく」ということを、お客さまに明らかにしたのもでもあります。

西鉄グループはさまざまな分野で事業を展開し、従業員もいろいろな仕事にたずさわっています。全員の力を同じ方向に結集し、大きな力を発揮していくために、私たち一人ひとりが「企業理念」を自分のものとし、「お客さまのためにできること」を考え、行動する企業グループをめざしてまいります。



1.3 企業メッセージ「まちに、夢を描こう。」

人の想いが、未来をつくる。

にしてつグループは、そう信じています。新しいモノやサービスを生み出すことも、暮らしを豊かにすることも、理想のまちをつくることも。すべては、人の想いからはじまります。だからこそ、お客さまひとりひとりの、従業員ひとりひとりの想いを大切にして、未来をつくっていきたいのです。

「まちに、夢を描こう。」という企業メッセージは、にしてつグループが手がける事業が、未来に向かってより拡大していくことへの期待感やスケール感を表現しています。「まち」とは、地域の皆さまとともに生きるまちでもあり、これから出会う新しい世界のまちでもあります。お客さまや地域の皆さまのさまざまなライフステージで、夢を共有しながら一緒に成長していく。それが、私たちの目指す企業グループの姿です。

1.4 長期ビジョン「にしてつグループまち夢ビジョン 2035」

1.4.1 長期ビジョン策定方針

当社グループの長期的な経営環境は、国内人口減少の一方で新興国を中心とした世界の人口増加、テクノロジーの急激な進歩、グローバル化に伴う社会の仕組みや顧客ニーズの変化、気候変動・温暖化、といったトレンドが加速的に進行していくと考えております。

そのような先行き不透明な時代においてもサステナブルに成長していくため、これまでの事業モデルの延長線ではなく、想定した未来像からのバックキャストで、当社グループが実現したい社会と提供したい価値、その達成に向けた基本的な事業戦略等で構成される長期ビジョンを策定いたしました。

1.4.2 まち夢ビジョン 2035 の位置づけ



1.5 サステナブル経営の推進

1.5.1 サステナブル経営の方針

当社グループにとってサステナブル経営とは、企業理念の実践です。企業理念に従い、社会の役に立ち、社会から信頼される企業であり続けること、つまり「良い企業市民」として、地域の持続的な発展に貢献していくことだと考えています。

それは事業活動を行っていく中においては、地域社会、お客さま、従業員など多くのステークホルダーの期待に継続して応え続けていくことです。

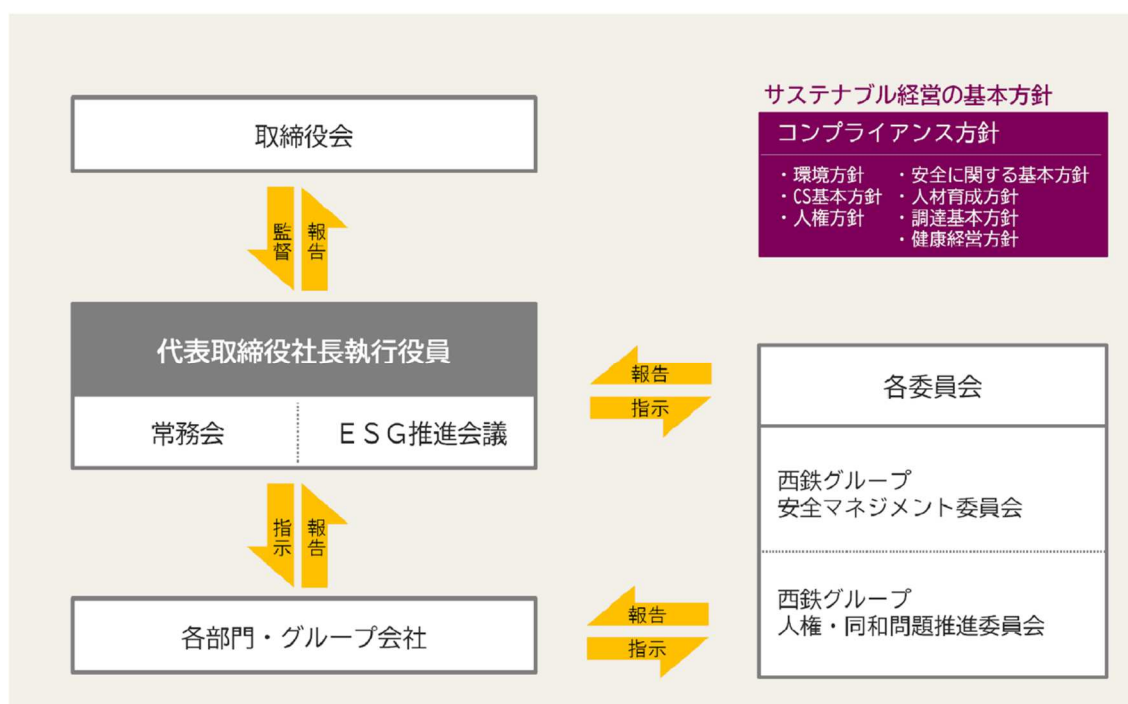
1.5.2 サステナブル経営推進体制

サステナブル経営の本来の姿は、従業員が日常的な事業活動の中で企業理念に則った行動を無意識に実践できている状態です。

当社グループでは、この理想形に近づくため、グループ全従業員の基本となる行動ルールを「コンプライアンス方針」に定め、その他の重要なテーマについても、それぞれ方針を定めて事業活動の中で実践しています。

またサステナビリティに関する重要な方針・方向性を協議し、社長の意志決定を補佐する常務会、ESG 推進会議や各委員会を設置し、サステナブル経営に取り組んでいます。

■ サステナブル経営推進体制



1.5.3 重要課題の特定プロセス

ステップ1 重要課題の検討

世界のメガトレンドや、社会経済情勢、SDGs、国際機関のガイドライン、また ESG 評価機関の評価項目、業界トレンド、各事業の特性、他社の動向等を分析し、重要課題候補を検討。

ステップ2 重要課題の絞り込み・評価

当社グループの置かれている状況や、企業理念、西鉄グループまち夢ビジョン 2025、第 15 次中期経営計画を踏まえた自社にとっての重要度、ステークホルダーにとっての重要度を踏まえ、自社の重要課題を評価し特定。

ステップ3 重要課題(テーマ)の特定

経営会議、ESG 推進会議での議論を経て、特定。

1.5.4 重要課題

上記プロセスを経て、重要課題を特定しました。また、重要課題に取り組むことで、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成にも貢献していきたいと考えています。

【サステナブル経営の重要課題における各事業の取り組み内容およびアクションプラン】

重要課題	取り組み内容	アクションプラン	SDGs	
E 環境と調和 ある事業活 動の推進	脱炭素社会実現	<ul style="list-style-type: none"> TCFD 提言への賛同・適切な開示の実施 (バスのシナリオ分析公表/2022.3、鉄道のシナリオ分析公表/2023.6) 省エネ車両への代替促進 EV/バスの導入推進 (中古車両を安価に電動化した「レトロフィット電気バス」) 新福ビルの環境性能強化 (地域熱供給システム導入によるCO2排出量削減) グリーンロジスティクスへの取組 (モーダルシフト、集約配送、梱包資材削減・再利用) スコープ3排出量の把握・提示方法の検討 ESGファイナンス導入検討 	 	
	循環型社会実現	<ul style="list-style-type: none"> フードロスの取り組み(フードドライブの実施、㈱西鉄ストアの食育活動) 西鉄ビルマネージメント㈱における食品リサイクル事業の拡大検討 ホテルのエコ清掃(連泊者のリネン交換を簡素化) 		
	新領域事業	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーに関する事業の推進(西鉄自然電力合同会社) 水素等の蓄電機能に関する研究 木質バイオマス事業をはじめとした山林関連事業の検討 九州メタル産業㈱における再生プラスチックの事業研究 		
S 安全・あし んの追求	ICTを活用した 安全性の維持・ 高度化	<ul style="list-style-type: none"> 新型ドライブレコーダーの導入拡大 AIによる駅の安全性向上(監視カメラをAI解析し、異常検知を係員に通知) ICTを用いた効率的な鉄道施設点検の実証実験実施 (ドローンによる鉄道施設点検の効率化・車両状態監視システムの実証実験) 	 	
	持続可能で 活力あるまち づくりへの貢 献	福岡都心の大型 開発プロジェクト 推進	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の変化にあわせた天神の目指すべき将来像や実現戦略のアップグレード 次世代型まちづくりの推進(国際金融都市、ゼロカーボン) 公共空間の日常的な活用に向けた検討 「感染症対応シティ」「国際金融拠点都市」に相応しい福ビル街区建替計画の実現 	 
		沿線主要拠点の 開発プロジェクト 推進	<ul style="list-style-type: none"> 沿線の大型公募案件への参画検討 鉄道駅・バス拠点を核として地域特性に応じたコンパクトで賑わいのあるエリア形成 に向けた再開発事業の検討・実施 連続立体交差化事業の高架切替、高架下を活用したまちづくり 	
		持続可能な交通 ネットワークの 整備	<ul style="list-style-type: none"> 郊外部における新型オンデマンドバス「のーと」の展開 自動運転バス実証実験への積極的な参画・推進 (福岡空港内で大型自動運転バスを用いた実証実験) 他交通事業者との連携強化(JR九州等) 	
		ポストコロナの 観光復活に向け た取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 他交通事業者と連携した観光客の利便性向上 (九州内で利用可能な連携チケットの検討) QR企画乗車券の導入 Visaタッチ決済の本格実施に向けた実証実験 	
		地域資源と連携 した事業機会の 創出	<ul style="list-style-type: none"> NJアグリサポートの産品や沿線産品活用による六次化商品開発 「THE RAIL KITCHEN CHIKUGO」を活用した地域連携活動の推進 「HOTEL CULTIA 太宰府」における地域との連携(体験型コンテンツの創出) 	
お客さま満足 の向上	お客さまの声に 応える取り組み	<ul style="list-style-type: none"> お客さまの声について社内フィードバックの実施 		
働きやすい・ 働きがいの ある職場づく り	ダイバーシティ、 エクイティ&イン クルージョン (DE&I)の実現	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人財の活躍に向けた取り組み (女性活躍の推進や外国人の雇用) 	 	
	ワークライフバ ランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> テレワーク等の多様な働き方の提供 西鉄グループ健康宣言に基づいた健康経営の推進 デジタル技術の積極導入による職場環境改善 	 	
人権の尊重	誰ひとり取り残さ ない社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> 安心して共生する環境づくり[バリアフリー、環境整備] (鉄道駅の安全性の高度化[2Dセンサー・AIカメラ]、駅ホームドアの設置、 バス停ベンチプロジェクトの推進[福岡市との協働]) 多様な世代が共生する地域づくり[高齢者、子育て世代] (シニアマンションの開発・充足、車両への車いす・ベビーカースペース設置) 性的マイノリティへの配慮[ジェンダーフリー] (nimoca券面への性別記載廃止、ジェンダーフリートイレの設置) 外国人との共生[多言語表記等] (鉄道・バス車両の行先表示器・企画乗車券等における多言語表記、 車両・駅構内での外国語案内、駅ナンバリング) 	 	
		人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な人権研修の実施 西鉄グループ人権方針に基づいた事業活動 西鉄グループ調達基本方針に基づいた責任ある調達活動 	
	コーポレート・ ガバナンス	環境変化に対応 したガバナンス の強化	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーの要請に応じた開示情報の充実(非財務情報等) 	
コンプライア ンス	コンプライアンス 意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスセルフチェック見直し 		

1.6 環境への取り組み

1.6.1 にしてつグループ環境方針

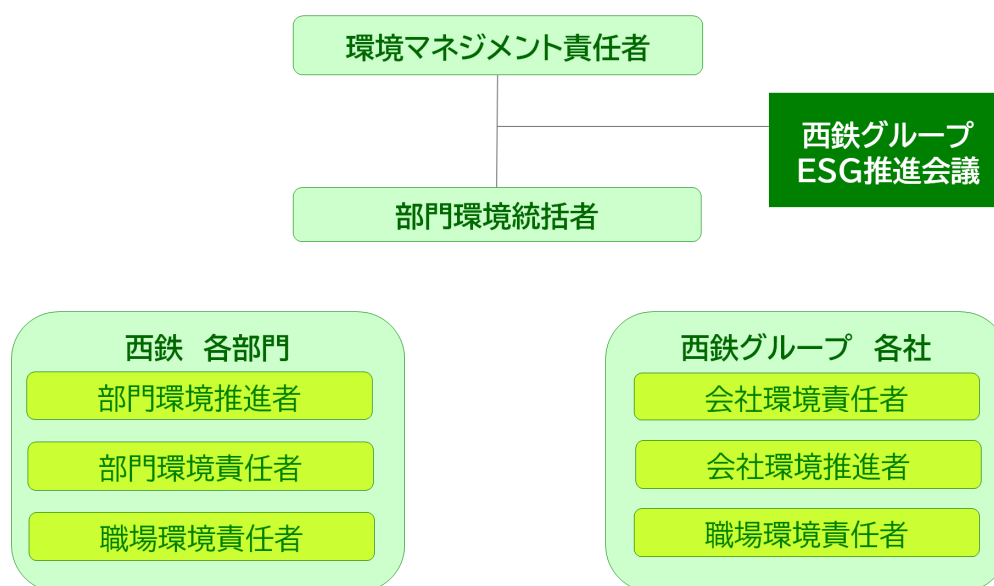
わたしたちは、地球環境の保全を重要課題と認識し、環境との調和ある事業活動を通じて、環境負荷を低減するとともに、循環型社会の実現と地球温暖化の抑制に寄与してまいります。

- (1) 環境意識の向上
- (2) 法令・規制の正しい理解と遵守
- (3) 資源およびエネルギーの効率的利用と排出物の削減
- (4) エネルギー効率の高い公共交通の利用促進
- (5) 環境品質を備えた商品・サービスの提供

以上の方針に基づき、環境への取り組みを継続的に改善してまいります。

1.6.2 西鉄グループ環境マネジメント体制

各部・グループ各社の環境責任者・推進者によって環境負荷低減計画に基づいた取り組みを推進する一方で、グループ全体の環境経営に関わる事項を協議、審議、進捗管理する場として ESG 推進会議が設置されています。



1.7 TCFD 提言への賛同

当社グループでは、持続可能な社会の実現に貢献し、社会から信頼され長期にわたり発展し続ける企業であるために、地球環境の保全を重要課題と認識しています。

そのため、環境との調和ある事業活動を通じて、環境負荷を低減するとともに、循環型社会の実現と地球温暖化の抑制に寄与することを目的とした「にしてつグループ環境方針」を制定し、現在まで環境負荷低減活動を実践してまいりました。

当社グループは、バス事業・鉄道事業などの運輸業を始め、賃貸事業・住宅事業などの不動産業や流通業等の様々な事業を展開しており、各事業に応じた対応が必要となります。

当社は、TCFD 提言へ賛同するとともに、にしてつグループ全体の CO2 排出量の約 50%を占めるバス事業について情報開示をしております。また、鉄道事業につきましても TCFD 提言に基づくシナリオ分析を実施いたしましたので、情報開示をしております。今後も引き続き、気候変動に適切に対応し、地球環境保全に取り組んで参ります。

2 サステナビリティファイナンス・フレームワーク

本フレームワークは、国際資本市場協会 (ICMA) が定めるグリーンボンド原則 2021、ソーシャルボンド原則 2023、サステナビリティボンドガイドライン 2021、環境省のグリーンボンドガイドライン (2022 年版)、金融庁のソーシャルボンドガイドライン 2021、また「ローンマーケットアソシエーション (LMA)」「アジア太平洋地域ローンマーケットアソシエーション (APLMA)」「ローン・シンジケーション & トレーディング・アソシエーション (LSTA)」が定めるグリーンローン原則 2023、ソーシャルローン原則 2023、環境省のグリーンローンガイドライン 2022 年版に適合しており、以下の 4 つの柱について定めています。

1. 調達資金の用途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

2.1 調達資金の用途

サステナビリティファイナンスによって調達された資金と同額が新規ファイナンスまたはリファイナンスとして、以下のグリーン/ソーシャル適格クライテリアを満たす新規または既存の適格プロジェクトに充当します。なお、既存プロジェクトへの充当の場合は、サステナビリティファイナンスの調達から36ヶ月以内に開始、または適格性が確認されたものとします。

適格プロジェクトは、当社及び当社グループ会社により実施される以下のグリーン/ソーシャル適格プロジェクトを満たす設備投資や運転資金を指します。

【グリーン適格クライテリア】

カテゴリー	適格クライテリア	適格プロジェクト例
グリーン ビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 下記のいずれかのグリーンビルディング認証を取得した建物の建設、修繕、取得等にかかる費用 <ul style="list-style-type: none"> ・ DBJ Green Building 認証：5つ星、4つ星または3つ星 ・ CASBEE 認証：Sランク、AランクまたはB+ランク ・ LEED 認証：Platinum、Gold または Silver ・ BELS 認証：5つ星、4つ星または3つ星 ・ ZEB：ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready または ZEB Oriented 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 福ビル街区 建替プロジェクト (DBJ Green Building 認証：5つ星)  <ul style="list-style-type: none"> ▶ ソラリア西鉄ホテル札幌 (CASBEE:Aランク) ▶ 西鉄ホテル クルーム 博多祇園 櫛田神社前 (CASBEE:Aランク)
クリーン輸送	<p>【鉄道事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 電気を動力とする車両の新造・改造・更新に係る投資 ▶ 鉄道関連設備の維持・改修・更新に係る投資 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 車両の導入 

カテゴリー	適格クライテリア	適格プロジェクト例
クリーン輸送	【バス事業】 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 低炭素輸送機器の導入に係る投資（電気バス、水素バス等） ▶ 低炭素輸送機器関連設備に係る投資 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 電気バスの導入 
エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 従前より30%以上の省エネルギー化を実現する設備、施設の導入、改修に係る投資 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ LED照明化 ▶ 既存施設の空調設備の導入、改修
再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 再生可能エネルギー事業の開発、建設、運営、改修にかかる新規または既存の投資資金及び費用 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 太陽光パネルの設置 

【ソーシャル適格クライテリア】

カテゴリー	適格クライテリア	適格プロジェクト例	対象となる人々
社会経済的向上とエンパワーメント	<ul style="list-style-type: none"> ▶ イノベーション創出拠点の整備に係る投資 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ イノベーションキャンパスの整備（コワーキングスペースの設置等） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 小規模事業者 ▶ スタートアップ企業 ▶ 起業家 ▶ 零細・中小企業経営者 ▶ 多様な働き方を必要としている人々
社会経済的向上とエンパワーメント	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 当社鉄道沿線の周辺地域の活性化や魅力向上に貢献する施設の整備・建設等 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 連立高架下周辺開発 桜並木駅(新駅)や連立高架下を中心に、商業店舗や自治体と連動した施設、住居機能等、多世代の交流・地域活性化に貢献する施設の整備・建設 ▶ 柳川駅前にぎわい交流施設 自治体による掘割の柳川駅引き込みと共同し、水辺空間と一体となった観光交流拠点の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域企業 ▶ 地域住民

カテゴリー	適格クライテリア	適格プロジェクト例	対象となる人々
手ごろな価格の基本的インフラ設備	【鉄道事業】 ▶ 鉄道車両のバリアフリー化に係る投資	▶ 車両に車いすスペースを設置	▶ 障がい者 ▶ 高齢者 ▶ 妊娠中の方 ▶ 子供と子供連れの家族 ▶ 上記を含む鉄道・関連設備・建物を利用するすべての人々
	【鉄道関連設備】 ▶ 駅施設のバリアフリー施設の導入に係る投資	▶ ホームドアの整備 ▶ バリアフリースイールの導入	
	【サステナビリティ・ビルディング】 ▶ 高齢者・障がい者等の移動に困難を抱え人々の移動を容易にするための建物のバリアフリー設備の導入・整備に係る投資や費用	▶ 建物にバリアフリー設備の導入	

2.2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

本サステナビリティファイナンスの調達資金が充当される適格プロジェクトは、当社の経理部が適格クライテリアに基づいてプロジェクトの候補を選定します。特定された対象候補プロジェクトについて、経理部及び関係部門で協議を行い、経理部担当役員が最終決定します。

なお、すべての適格候補プロジェクトについて、環境・社会的リスク低減のために以下について対応していることを確認します。

- ▶ 国もしくは事業実施の所在地の地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- ▶ 事業実施にあたり地域住民への十分な説明の実施
- ▶ 西鉄グループ調達基本方針に沿った資材調達、環境汚染の防止、労働環境・人権への配慮の実施

2.3 調達資金の管理

サステナビリティファイナンスとして調達した資金は、当社の経理部が適格プロジェクトへの充当及び管理を行います。経理部は、本フレームワークにて調達されたサステナビリティファイナンスの調達額と同額が適格プロジェクトのいずれかに充当されるよう、償還または満期までの間、年度毎に内部会計システムを用いて、追跡、管理します。

サステナビリティファイナンスによる調達資金が適格プロジェクトに充当されるまでの間の未充当資金については、現金または現金同等物にて運用し、調達から 2 年程度の間で充当を完了する予定です。

2.4 レポーティング

当社は、プロジェクトへの資金充当状況ならびに環境または社会への効果を、年次で、当社ウェブサイトにて報告します。なお、サステナビリティファイナンスについての初回レポートは、調達から 1 年以内に公表する予定です。

2.4.1 資金充当状況レポーティング

サステナビリティファイナンスにて調達された資金が全額充当されるまでの間、年次で、調達資金の適格プロジェクトへの充当状況に関する以下の項目について、実務上可能な範囲でレポートする予定です。

- ▶ 調達資金の適格プロジェクトへの充当額合計
- ▶ 適格クライテリア別での充当額と未充当額
- ▶ 未充当額がある場合は、充当予定時期及び未充当期間の運用方法
- ▶ 新規ファイナンスとリファイナンスの割合

なお、調達資金の金額が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

2.4.2 インパクト・レポーティング

適格プロジェクトによる環境または社会への効果に関する以下の項目について、年次にて、調達された資金が全額充当されるまで実務上可能な範囲でレポートする予定です。また、大きな状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

【グリーンプロジェクト】

カテゴリー	レポート項目(例)
グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 物件概要 ▶ 取得した認証の種類とランク ▶ 想定 CO2 排出削減量
クリーン輸送	【鉄道事業】 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車両投入実績 ▶ 維持・改修・更新を実施した鉄道関連設備の状況 ▶ 想定 CO2 排出削減量
	【バス事業】 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車両投入実績 ▶ 車両関連設備導入実績 ▶ 想定 CO2 排出削減量
エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プロジェクト概要 ▶ LED 導入数 ▶ 想定 CO2 排出削減量
再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プロジェクト概要 ▶ 年間発電量 ▶ 想定 CO2 排出削減量

【ソーシャルプロジェクト】

カテゴリー	アウトプット	アウトカム	インパクト	
社会経済的向上とエンパワーメント	イノベーション創出拠点の整備に係る投資	整備概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各施設の年間利用者数 ▶ イノベーション創出に向けて開催されたイベントの概要、開催回数 ▶ 創出されたイノベーション(創業された会社や創出 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ウェルビーイングな場づくりを提案するまちづくりソリューションの構築

			された新規事業の概要などケースの紹介)	
社会経済的向上とエンパワーメント	当社鉄道沿線の周辺地域の活性化や魅力向上に貢献する施設の整備・建設等	整備概要	▶ 周辺開発をした各駅の日平均乗降人員数	▶ サステイナブルなまちづくりを通じた地域の活性化 ▶ 地域の魅力向上
手ごろな価格の基本的インフラ設備(バリアフリー設備に係る投資)		工事の概要	▶ 駅別乗降人員 ▶ 建物・施設利用者数または機能	▶ 安全・あんしんで持続可能な次世代モビリティネットワークの実現